

# electro-harmonix

## Deluxe Big Muff Pi

### 内部トリムポットについて:

本機のMIDS EQ部は3つのトリムポットを装備しており、それぞれ以下を調整します:

- 1) High Qの帯域幅
- 2) High Qの出力(音量)
- 3) MIDS EQの出力(音量)

工場出荷時のセッティングは以下のように調整されています:

- 1) HIGH Qモードではより深みがあるサウンド
- 2) HIGH Qモード時の音量がLOW Qモードより少し大きめ
- 3) MIDS EQがON時は、MIDSノブの設定のほとんどの場合でバイパス時よりほんの少し音量がブーストされる

もちろん工場出荷時セッティングは万人向けのものではないため、もしトリムポットの調整を行う場合は、本機裏面の4つのネジを外し底板を取り外して下さい。その後、電源ジャックが手前と反対側を向くように本機を裏返します(プリント基板の上方左側に、3つの小さいトリムポットが配置されています)。

トリムポット操作の前に:

トリムポットを調整する前に、工場出荷時のセッティングを記録しておいて下さい。(工場出荷時のセッティングは個体ごとに異なっているのでご注意下さい)

トリムポットは2mm幅のマイナスドライバーで調整します。底板を外している間は、回路上のその他の部品に触れて損傷されないようご注意ください。

トリムポットのシグナルパス(信号経路)は以下の順番です:

HI Q AMT(TRIM 1)→HI Q VOL(TRIM 2)→MID EQ OUT VOL(TRIM 3)

High Qの帯域幅はHI Q AMT(TRIM 1)で調整します。また、HIGH Qモードの音量も以下のように変化します:

HI Q AMTの設定を高くする→HIGH Qの音量が上がる

HI Q AMTの設定を低くする→HIGH Qの音量が下がる

このように、HI Q AMT(TRIM 1)を調整する際は、HI Q VOL(TRIM 2)も同時に調整する必要があります。

LOW Qモードの音量を変更したい場合は、以下の手順となります:

- 1) LOW Qモードが好みの音量になるまで、MID EQ OUT VOL(TRIM 3)を調整します。
- 2) HIGH QモードとLOW Qモードの音量を比べ、必要ならばHI Q VOL(TRIM 2)を調整します。

Electro-Harmonix DELUXE BIG MUFF PIをご購入いただきありがとうございます。本機は、究極のディストーション-サステインサウンドを持ったペダルです。愛するNYC BIG MUFF PIをベースに新しく追加する機能を吟味した結果、素晴らしいトーンを持った幅広いディストーションサウンドを獲得しました。是非このマニュアルをお読みにになり、このペダルが持つユニークなサウンドの可能性を探ってみて下さい。

### 機能:

- ・BIG MUFFのノブのレイアウト(おなじみのSUSTAIN/TONE/VOLUMEコントロール)
- ・MIDS(中域)EQ(パラメトリックMIDS EQによる可変式フリーケンシー・スイープ/ブースト/カット、Qの切替や帯域幅の調整が可能)
- ・MIDS EQ用フットスイッチ(MIDS EQ回路のON/OFFが可能)
- ・GATE(余分なハムノイズのカット)
- ・ATTACK(ドライ信号を強調し、ピッキングのアタックを保持)
- ・BASS BOOST(切替可能なBASS BOOST)
- ・EXPRESSION PEDAL(エクスペッション・ペダル)入力端子 (MIDS EQのフリーケンシーのスイープが可能)
- ・トゥルーバイパス

DELUXE BIG MUFF PIのこれらの機能は、社長であるMike Matthews(マイク・マシューズ)がBIG MUFFシリーズでかねてから実現を望み、かつEHX社の友人達の多くからもアドバイスをもらっていた最終形です。MIDS EQはかつてないほどのBIG MUFFディストーションのトーンシェイプを可能にし、GATE機能は演奏中は新しく激しいファズサウンドを、また演奏していないときは余分なノイズをカットします。ATTACKコントロールは、オリジナルのトーンを損なうことなく、コードやリフをプレイするときの音の粒立ちをクリアにします。そしてBASS BOOSTは、TONE設定がトレブル寄りになっているときでもローエンドを強調することができます。

### — 操作方法(コントロール)について —

**VOLUMEコントロール** — エフェクトON時の出力レベル(音量)を調節します。

**TONEコントロール** — トーンを調節します(深い低域から高域までカバーしています)。ノブを時計回りに回すと高域が強調され低域が弱まります。

**SUSTAINコントロール** — オリジナルのBIG MUFF PI同様サステインとディストーションの量を調節します。

**BASS BOOST/NORMALスイッチ** — NORMAL(ノーマル)設定時は、現行の"NYC" BIG MUFFサウンドになります。BASS BOOST(ベース・ブースト)側にスイッチを切り替えると、低域の音量が増幅されます。BASS BOOST機能は、TONEコントロールが12時の位置より上に設定されているときに最も有効です。

**ATTACKコントロール** — ATTACK(アタック)効果の音量を調節します(ATTACKコントロールを時計回りに回すと増加します)。ATTACKの効果 OFFにする場合は、ノブを反時計回り一杯に回しきります。

ATTACKのシグナルパスはBIG MUFFの回路と並列になっています。ATTACKの機能はピッキングのアタックのサウンドを強調するもので、厳選されたバンドパス・フィルターが入力信号に作用し、演奏してサステインとなった音よりもピッキングのアタックの音量が大きくなります(ATTACK信号は完全にクリーンではなく通常はザラザラしていますが、BIG MUFFのディストーションサウンドほどではありません)。

**GATEコントロール** — このノブを時計回りに回すと、GATE(ノイズゲート)のスレッシュホールド(感度)が上がります(反時計回り一杯に回しきると、ノイズゲートの効果が消えます)。

**MIDS LEVELコントロール** — MIDSがON時(MIDSフットスイッチ側のLEDが点灯します)、FREQノブで設定された周波数において、このノブで+/-10dBのブースト・カットができます。MIDS LEVELノブをセンターの12時の位置より上に回すとブーストになります(カットするときには12時の位置から反時計回りに回します)。なお、このノブの12時の位置にはセンタークリックが付いています。12時の位置ではEQはフラットになり、ブーストもカットも行いません。また、ノブを反時計回り一杯に回しきっている状態では、EQはバイパスされます(スイッチ近くのLEDはOFFになります)。

**MIDS FREQコントロール** — 310Hz~5.0kHzの範囲で、MIDS EQ回路のセンター周波数を設定します。設定する際は、MIDS LEVELコントロールを3時以上の位置に設定してトーンの違いを聞き取れるようにします(MIDSフットスイッチ側のLEDが点灯します)。なお、MIDSフットスイッチがOFF(バイパス)時(MIDフットスイッチ側のLEDが消灯します)またはMIDS LEVELコントロールが12時の位置のときは、MIDS FREQノブは機能しません。

また、MIDS FREQノブは外部エクスペッションペダル(Electro-Harmonix EXPRESSION PEDAL)でもコントロールが可能です。外部機器を使用する場合は、INPUTジャック側にあるEXP(インプット)ジャックを使用します。外部エクスペッションペダルを使用する場合、つま先側一杯の位置ではMIDS FREQノブの設定が最大(時計回り一杯に回しきった状態)になります。反対に、かかと側一杯の位置では、MIDS FREQノブの設定は最小(反時計回り一杯に回しきった状態)になります。エクスペッションペダルについては、後述のEXP(インプット)ジャックの項目を参照して下さい。

**MIDS Qスイッチ** — このスイッチでレゾナンスまたはMIDS EQの帯域幅を設定します。LOWモードでは、EQの効いたサウンドはより広範囲に丸くなり、大きい周波数レンジで作用します。HIGHモードでは、サウンドはよりシャープに尖った感じになり、狭い範囲の周波数レンジで効果を発揮します。

**MIDSフットスイッチ/LED** — MIDS EQのON/OFFを切り替えます。白いステータスLEDが点灯しているときは、MIDS EQの回路はONになりMIDS LEVELコントロールとMIDS FREQコントロールが効くようになります。

**BYPASSフットスイッチ/LED** — エフェクトのON/OFF(トゥルーバイパス)を切り替えます。赤色のLEDが点灯しているときは、エフェクトがONになります。LEDが消灯しているときは、本機はトゥルーバイパスモードになります。

#### — 電源または接続方法 —

**INPUTジャック** — 楽器の出力信号を楽器用ケーブルでこのジャックに入力します。入力インピーダンスは約130kΩです。

**OUTPUTジャック** — このジャックに楽器用ケーブルを接続し、もう一方をアンプまたはアンプ側のエフェクトペダルに接続して本機からの信号を出力します。出力インピーダンスは300Ωです。

**EXP(インプット)ジャック** — このジャックにステレオフィोनのケーブルを接続し、もう一方をエクスペッション・ペダルの入力端子に接続するとMIDS EQのセンター周波数の操作がペダルで可能になります。モノラルケーブルを使用/接続した場合には、コントロール・ボルテージ(CV)モードとなり、CV機器の操作が可能となります(受容電圧は0~5Vです)。

推奨ペダル: Electro-Harmonix EXPRESSION PEDAL, M-AUDIO® EX-P, MOOG® EP-2, Roland® EV-5, Boss® FV-500L

なお、エクスペッション・ペダルのプラグの極性については、スリーブがペダルのかかと位置、リングがつま先側位置、そしてTIPがカム位置でなければなりません。エクスペッションペダルの標準インピーダンスは10kΩですが、6~100kΩの範囲で受容することもあります。

**注意:** MIDS EQがOFF(バイパス)の際は、エクスペッションペダルは無効になります。

**電源について** — 本機は9V電池 x 1または別売のDC9V アダプター(センターマイナス、供給電流50mA以上)にて駆動します(本機の消費電流は22mA/9VDCです)。なお、ACアダプターを使用する際は内部の9V電池は外しておいて下さい。

#### — 操作上の注意 —

##### 電池交換について:

9V電池を交換する際は、本機裏面にある4つのネジを外して下さい。ネジを取り除いたら、底板を外して電池を交換します。なお、底板を外す際は基板に触れないようご注意ください。

##### "シールドング"(ノイズ対策)について:

ロングサステインを得られるよう、本機はかなり高めのゲイン設定になっています。過大なハムノイズを避けるために、特にサステインノブを高めに設定する際は、十分にシールドが施されているピックアップやケーブルを使用して下さい。